

表35 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別:女		年齢:25	地域:奥町	国籍等:日本	IDNo:2220	平成22年9月28日現在
疾病1	疾病2	疾病3	外傷1	外傷2	その他	その他
精神発達遅滞	-	疾病3	外傷1	外傷2	-	-
心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他	その他
軽度知的障害	軽度知的障害	問題なし	問題なし	-	25歳になってから手帳を取得	-
歩行	歩行	ADL	家事	職業能力	その他	その他
可	可	自立	母が行う	経験なく不明	専門学校卒業後在宅生活	-
可	可	自立	支援があれば可能	意欲があまりないが、作業等は可能	不明	-
一般就労・就学	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他	その他
実行状況(している)	-	福祉サービス事業所にボランティアとして参加	子どもの世話	不明	専門学校卒業後は自宅を過ごすのみ	-
能力(できる)	就労は経験なく不明	定期的に安定して通うことが出来る	保育士になりたいと希望を話すこともある	不明	不明	-
利用している福祉用具	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物理的環境	-
物理的環境	-	-	-	一戸建て	近隣に親戚が居住	-
家族的支援	家族的支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援	-
両親、妹あり。母は判断能力が不十分な面あり、親類の支援あり	両親、妹あり。母は判断能力が不十分な面あり、親類の支援あり	通所先での交流あり	不明	支援者の受け入れは良好	-	-
利用している制度	利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公取のサービス	あるが利用していない公取のサービス	あつたら利用したい制度・サービス	-
療育C	療育C	-	-	障害福祉サービス(就労系)	-	-
(生活観)実現したい生活	(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	-
いまのまま母と生活していきたい	いまのまま母と生活していきたい	不明	働かなくても財産で生活していけると考えている	働く意欲が低い	-	-
本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者	-
参加状況	母	-	-	-	就労継続B・生活介護事業所、就労移行支援、就業・生活支援センター、相談支援、福祉課	-
会議参加者	本人	参加	本人	本人	本人	本人
会議の検討事項・結果	会議開催の理由・背景	会議開催の理由・背景	会議開催の理由・背景	会議開催の理由・背景	会議開催の理由・背景	会議開催の理由・背景
親類の意向でこれまで療育手帳も取得せず福祉サービスにもつながらず自宅にて引きこもりがちになっていたが、親類の支援があり、相談支援や通所につながった。現在はボランティアとして利用しているため、本人の年齢や能力を考慮し、就労系のサービスの利用など、今後のステップアップに向け支援方針を検討	本人は親類に保護された生活を送ってきたため、今後の就労等に向けての活動にはあまり意欲的ではなかったが、今後の生活のイメージを具体的に持つよう、福祉サービス事業所の見学を行い、利用を促し、意欲を高め、希望を示すに支援体制が作れるようにする	本人は親類に保護された生活を送ってきたため、今後の就労等に向けての活動にはあまり意欲的ではなかったが、今後の生活のイメージを具体的に持つよう、福祉サービス事業所の見学を行い、利用を促し、意欲を高め、希望を示すに支援体制が作れるようにする	本人は親類に保護された生活を送ってきたため、今後の就労等に向けての活動にはあまり意欲的ではなかったが、今後の生活のイメージを具体的に持つよう、福祉サービス事業所の見学を行い、利用を促し、意欲を高め、希望を示すに支援体制が作れるようにする	本人は親類に保護された生活を送ってきたため、今後の就労等に向けての活動にはあまり意欲的ではなかったが、今後の生活のイメージを具体的に持つよう、福祉サービス事業所の見学を行い、利用を促し、意欲を高め、希望を示すに支援体制が作れるようにする	本人は親類に保護された生活を送ってきたため、今後の就労等に向けての活動にはあまり意欲的ではなかったが、今後の生活のイメージを具体的に持つよう、福祉サービス事業所の見学を行い、利用を促し、意欲を高め、希望を示すに支援体制が作れるようにする	本人は親類に保護された生活を送ってきたため、今後の就労等に向けての活動にはあまり意欲的ではなかったが、今後の生活のイメージを具体的に持つよう、福祉サービス事業所の見学を行い、利用を促し、意欲を高め、希望を示すに支援体制が作れるようにする

表36 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別: 女		年齢: 19		地域: 三条		国籍等: 日本		IDNo.2221	
		疾病1		疾病2		疾病3		平成22年9月30日現在	
		精神発達遅滞		てんかん		-		外傷2	
		心身機能・身体構造		精神機能 自傷行為あり(環形性パーソナリティ障害?) 軽度知的障害あり		運動機能		その他	
生活機能		活動		可		ADL		その他	
		実行状況(している)		可		可		その他	
		能力(できる)		可		可		その他	
参加		実行状況(している)		していない		知的通所授産		その他	
		能力(できる)		不可		不明		不明	
環境因子		物的環境		利用している福祉用具		あるが利用していない福祉用具		住居の状況	
		人的環境		家族の支援		友人との交流・支援		借家	
		社会環境		母と内縁の夫からの支援あり		-		関係者との交流・支援	
背景因子		療育C		利用している制度		あるが利用していない制度		あつたら利用したい制度・サービス	
		個人因子		(生活観)実現したい生活		(価値観)大事にしていること		不明	
		本人		安定した生活		お金		未解決の生活上の問題	
会議参加者		参加状況		家族		私的関係者		偏食あり	
		-		母		-		福祉関係者	
会議の検討事項・結果		会議開催の理由・背景		会議開催による改善点及び残された課題と展望		会議開催による改善点及び残された課題と展望		知的通所授産、相談支援、県立コニエ、養護学校、市福祉課	
		・施設利用の現状の交流及び今後の施設利用の見通しの交流・利用料の滞納が継続している事への対応		・利用料に関しては、会議では毎日500円ずつの支払いをする話し合いをした。その結果、300円ずつ持参する状況が続いた。しかし、母の失職と共に12月より滞っており、滞納の解消の展望が見えてきていない。					

表37 国際生活機能分類 (ICF) を基にした現状分析表

性別: 女		年齢: 48	地域: 大和	国籍等: 日本	ID No. 2222	平成22年9月28日現在
生活機能	疾病1	疾病2	疾病3	外傷1	外傷2	その他
	統合失調症	パニック障害	うつ病	腰痛	-	精神科は定期的に通院腰痛は訴え絶えずあり
活動	心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他
	実行状況(している)	精神疾患あり、不安定	足指の変形で歩きづらい	問題なし	-	-
参加	能力(できる)	歩行	ADL	家事	職業能力	その他
	実行状況(している)	可(外出は杖歩行)	自立	腰痛などから買い物や掃除の支援を希望	過去就労していたようだが現在は不明	-
環境因子	能力(できる)	可	自立	ほぼ自力で行える	不明	-
	物的環境	利用している福祉用具	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他
背景因子	物的環境	-	-	不明	近隣との交流あり	-
	人的環境	家族の支援 母と2人暮らし。母は様々な疾患抱え要介護4。2人とモクレーマー	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	近隣との交流あり	-
会議参加者	社会的環境	利用している制度 精神2級、生活保護	あるが利用していない制度	近隣住民とは交流あり	近隣との交流あり	-
	個人因子	(生活観)実現したい生活 不明	あるが利用していないサービス	利用している公私のサービス	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境
会議の 検討事項・ 結果	本人	家族	私的関係者	居宅介護・福祉タクシー	集合住宅(市営住宅)	-
	-	-	医療関係者	保健関係者	関係者との交流・支援	ポランティア等その他の人的交流・支援
会議開催の理由・背景		会議開催による改善点及び残された課題と展望		未解決の生活上の問題 母親の介護における負担		
母も本人もヘルパーを利用しているが、これまでも言いがかりととれる様々な苦情により事業所は複数転々としている。今回も関係者が本人らの対応に辟易しており、本人については支援のヘルパー利用の必要性も少ないと思われる。人格的な要素が大きい本人、母に対して、支援者でどのような対応が適切か協議する		母と本人の共生関係から、支援者が今後も対応に困難を感じ続けることは予想でき、人格的な問題も解決困難であることから、家庭の状況に変化が起こるなどのタイミングでの介入は行つたが、支援者による積極的な関わりは行わない。母のケアマネも短い期間での交代などで負担軽減をはかる。		居宅介護(2)、訪問介護、母のケアマネ、高年福祉課、相談支援、福祉課		

表38 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別: 男		年齢: 5		国籍等: 日本		IDNo.2223	
富田地域:		疾病1		疾病2		平成22年10月14日現在	
精神発達遅滞		疾病3		外傷1		その他	
生活機能	心身機能・身体構造	自閉症	運動機能	視覚・聴覚	その他	精神科通院	その他
	活動	重度知的障害あり、こだわり行動があり	問題なし	特定の音が苦手	特定な物しか食べない		
参加	実行状況(している)	歩行	ADL	家事	職業能力	その他	
	能力(できる)	可能だが見守りが必要	生活全般に介助が必要	母親がおこなう	幼児のためなし		
環境因子	実行状況(している)	知的障害児通園施設年少	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他	
	能力(できる)	知的障害児通園施設年少	休日に児童デイサービス利用	-	なし		
背景因子	物的環境	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境	
	人的環境	家族の支援	友人との交流・支援	スケジュール表	賃貸、集合住宅		
社会環境	療育A	母親が精神的に不安定、姉が不登校	通園施設、児童デイでの交流あり	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援	
	個人因子	利用している制度	あるが利用していない制度	特定の近所の人とは、好意的な交流がある	本人の支援者との関係は良好		
会議参加者	本人	療育A	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス	
	家族	(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	児童デイサービス、民間の言語訓練	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	
会議の検討事項・結果	本人	安心出来る生活	私的関係者	独自の生活習慣等	姉が不登校 母親が精神的に不安定	福祉関係者	
	父、母	家族	医療関係者	臨床心理士2名	保健関係者	小学校、通園施設、相談支援事業所、療育サポートプラザ、福祉課	
会議開催の理由・背景		会議開催による改善点及び残された課題と展望					
様々な機関が御家庭に関わっているが、より意味深い支援を提供していけるよう関係機関に集まっていただき、それぞれの役割の確認と連携を深めていく機会とする。		それぞれの機関の役割を明確にしたことで、母親の混乱は少なくなってきた。今後年度が変わっても、引き続き関係者が同じ方向性でサポートしていきけるよう、丁寧に繋いでいく必要がある。					

表39 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別: 男		年齢: 33	地域: 大和	国籍等: 日本	IDNo.2224
疾病1		疾病2	疾病3	外傷1	外傷2
精神発達遅滞		自閉症	-	-	その他
生活機能	心身機能・身体構造	精神機能 中度知的障害あり、刺激によつては不安定	運動機能 問題なし	視覚・聴覚 問題なし	精神科通院 その他
	活動	歩行	ADL	家事 母が行うが不十分、本人はヘルパー支援あり 母の影響があり同居では本人が行うことは困難 趣味等	職業能力 軽作業等 過去は授産施設利用あり、軽作業等は可能 地域活動 その他
参加	実行状況(している)	可	自立	電車を乗ること 可	-
	能力(できる)	可	自立	福祉施設等の利用 地域活動支援センター 支援があれば定期的に利用可能 あるが利用していない福祉用具	住居の状況 木造アパート(父が貸主) 関係者との交流・支援 不明 あるが利用していない公私のサービス 居宅介護、移動支援、地域活動支援センター 独自の生活習慣等 未解決の生活上の問題 母親との喧嘩 その他の特筆すべき物的環境 母親と2人で部屋に片付けができない ボランティア等その他の人的交流・支援
環境因子	物的環境	-	-	あれば利用したい福祉用具	-
	人的環境	家族の支援 母に知的障害あり、母の言動等が本人に大きく影響している	友人との交流・支援	近隣との交流・支援 ほとんどない	-
背景因子	社会環境	利用している制度 療育日、障害年金 (生活観)実現したい生活	あるが利用していない制度 -	利用している公私のサービス -	あつたら利用したい制度・サービス ケアホーム その他の特記事項
	個人因子	寮生活	不明	不明	-
会議参加者	本人	家族	私的関係者	医療関係者	福祉関係者 地域活動支援センター、居宅介護(3)、共同生活介護、相談支援、県地域移行推進課、市福祉課
	参加	父	-	精神科PSW	-
会議の検討事項・結果	会議開催の理由・背景 会議開催による改善点及び残された課題と展望 不定愁訴で作業所休みがち。母親の言動が本者を大きく左右している。作業所では問題なく日課をこなし、対人問題等なく活動している。本者が休む曜日に特に原因と思われられる要素はないと回答も受けている				

表40 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別:女		年齢:26	地域:		国籍等:日本		平成22年11月9日現在		IDNo.2225
疾病1		疾病2	疾病3	外傷1		外傷2		その他	
精神発達遅滞	自閉症							その他	
心身機能・身体構造	精神機能 最重度知的障害 こだわり強 く、予定の変更にパニックにな る	運動機能		視覚・聴覚	その他		その他	その他	
活動	歩行	ADL		視覚的情報優位	言葉によるコミュニケーションは困難		その他	その他	
参加	可	基本的な生活習慣は身につ いていない		家事	決まった作業については、あ る程度持続して作業している 見通しのきかないことや新 しいことは苦手		その他	不明	
環境因子	不明	基本的な生活習慣は身につ いていない		趣味等	地域活動		その他	不明	
背景因子	利用している福祉用具	生活介護事業所		休日には家電ショッパで加 タログ集め	不明		事業所の行事などに参加 している	事業所の行事などに参加 している	
	オムツ(家のトイレが使え ない)	生活介護事業所利用継続 している		外出支援でヘルパーと買 い物	不明		自分の気に入ったものに 対して興味を示す	自分の気に入ったものに 対して興味を示す	
	家族の支援	ポータブルトイレ		あれば利用したい福祉用具	住居の状況		その他の特筆すべき物的環境	その他の特筆すべき物的環境	
	兄は障害 父は右手を負傷	友人との交流・支援		洋式トイレ(知的障害者対 象の住宅改修)	持ち家であるがトイレ、風 呂など汚れがひどい		大きな改修を要する所以 外は、改善できている	大きな改修を要する所以 外は、改善できている	
	利用している制度	療育A		近隣との交流・支援	関係者との交流・支援		ボランティア等その他の人的交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援	
	(生活観)実現したい生活 今のままの生活を継続す ること	療育A		隣人が父の弟 精神障害 で入院歴あり	居宅介護事業所、日中活 動事業所 の支援あり		あったら利用したい制度・サービ ス	あったら利用したい制度・サービ ス	
個人因子	本人	私的関係者		利用している公私のサービ ス	短期入所		トイレ、風呂の住宅改修	トイレ、風呂の住宅改修	
本人	家族	私的関係者		居宅介護 生活介護 日 中一時支援 相談支援	未解決の生活上の問題		その他の特記事項	その他の特記事項	
参加状況	父	私的関係者		独自の生活習慣等	父が高齢で種類の援助も困 難 成年後見等は準備してい ない		家の借金はすべて返済	家の借金はすべて返済	
会議参加者	参加なし	医療関係者		パターン化された生活	保健関係者		福祉関係者	福祉関係者	
会議の検討事項・結果	会議開催の理由・背景			医療関係者	保健関係者		福祉関係者	福祉関係者	
	H20年3月に母急逝後、多くの機関の協力により、必要な援助を組み立てることができ、生活も安定してきたが、父が大怪我をしたことや本者らのニーズの変化、また将来に対する不安などの問題も生じてきたため、再度関係者で支援内容を協議する必要があるが生じた。			医療関係者	保健関係者		福祉関係者	福祉関係者	
	会議開催による改善点及び残された課題と展望			医療関係者	保健関係者		福祉関係者	福祉関係者	
	食事メニューのこだわりから献立を視覚化し、レパートリーを増やしていく工夫を行う。排泄については、住宅改修をするなどの方法をとらなければ解決は困難。借金の整理はつき、将来に向けた生活の準備が必要になるため、権利擁護や財産分与など、将来設計を検討し、手続を行っていく。			医療関係者	保健関係者		福祉関係者	福祉関係者	
	居宅介護事業所 生活介護事業所 GH事業所 福祉課 相談支援			医療関係者	保健関係者		福祉関係者	福祉関係者	

表41 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別: 男		年齢: 18	地域: 宮西	国籍等: 日本	平成22年11月11日現在	ID No. 2226
疾病1	疾病2	疾病3	外傷1	外傷2	その他	精神科通院
結節性硬化症	てんかん	精神発達遅滞	-	-	-	-
心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他	その他
	安定している	軽度知的障害あり	色発作あり	-	-	-
活動	歩行	ADL	家事	職業能力	その他	その他
実行状況(している)	可	自立	教えてもらえば可能	有り(就労移行支援利用)	-	-
能力(できる)	可	自立	教えてもらえば可能	可能	-	-
参加	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他	その他
実行状況(している)	養護学校高等部3年	就労移行支援	競馬のゲーム	不明	-	-
能力(できる)	養護学校高等部3年	可能	可能	不明	-	-
物的環境	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境	その他の特筆すべき物的環境
人的環境	家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ポランティア等その他の人的交流・支援	-
社会的環境	療育C	利用している制度	移動支援	就労移行支援	不明	-
個人因子	自立したい	(生活観)実現したい生活	不明	未解決の生活上の問題	あつたら利用したい制度・サービス	あつたら利用したい制度・サービス
本人	本人	家族	医療関係者	保健関係者	不明	不明
参加状況	参加	父母	養護学校担任教諭	-	てんかん発作のコントロール	てんかん発作の特記事項
会議参加者	本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者
会議参加者	参加	父母	養護学校担任教諭	-	-	相談支援センター 就業・生活支援センター 就労移行支援事業所 福祉 社理
会議の検討事項・結果	会議開催の理由・背景					
朝の通学時などにてんかん発作あり、一度は意識混濁、擦過傷を負う転倒も見られているので、以前のように自転車で単独通学は危険で現在は保護者により送迎されているが、母親は就労しており、送迎が困難な日もある。この点に福祉サービスを利用できないかとの相談が学校からあるが現状では難しい。安全面に配慮して具体的な対策を検討する	会議開催による改善点及び残された課題と展望					
朝の通学時などにてんかん発作あり、一度は意識混濁、擦過傷を負う転倒も見られているので、以前のように自転車で単独通学は危険で現在は保護者により送迎されているが、母親は就労しており、送迎が困難な日もある。この点に福祉サービスを利用できないかとの相談が学校からあるが現状では難しい。安全面に配慮して具体的な対策を検討する	学校側での話し合いにより、家族の意向を理解し「徒歩での自力通学を認める」との見解がでた。安全対策として諸々実施される。てんかん発作に対して10月中旬より新薬で調整し以降、大発作は出ていない。					

表42 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別:女		年齢:17	地域:大和	国籍等:日本	IDNo.2227 平成22年12月1日現在	
健康状態		疾病1	疾病2	疾病3	外傷1	外傷2
精神発達遅滞						その他
心身機能・身体構造		精神機能 軽度知的障害 理解力はあるが、人とのコミュニケーションは苦手	運動機能 問題なし	視覚・聴覚 問題ない	その他 人と話をすることは苦手で、黙り込んでしまう	その他
活動	実行状況(している)	歩行	自立	家事 叔母が行っている	職業能力 一般就労	その他 貯金を自己管理したところ、全額使ってしまった
活動	能力(できる)	可	自分から行おうとはしない	自分から行うことをしない	不明	金銭管理は困難
参加	実行状況(している)	一般就労・就学 職業訓練校卒業後、市内の企業に就職	福祉施設等の利用	趣味等 買い物 音楽	地域活動	その他 友人と買い物などを楽しむことができる
参加	能力(できる)	卒業後9ヶ月就労している	職業訓練校卒業	買い物 音楽	不明	不明
環境因子		物的環境	利用している福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境
環境因子		人的環境	家族の支援 両親とは死別 父の姉二人が協力的 祖母の在宅生活は困難	友人との交流・支援 職場内での友人や上司との交流あり	叔母の家に同居	祖母と暮らしていたマンションはある
環境因子		社会環境	療育C	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援 就業生活支援センターの支援あり	ボランティア等その他の人的交流・支援
環境因子		個人因子	(生活観)実現したい生活 将来は一人で生活してみたい	利用している公私のサービス	GH/CH	あつたら利用したい制度・サービス
環境因子		本人	家族	独自の生活習慣等 不明	未解決の生活上の問題 金銭感覚が乏しく、数ヶ月で数10万使ってしまった	その他の特記事項
環境因子		参加	叔母(2名)	医療関係者	保健関係者	福祉関係者 社会福祉協議会 GH事業所 就業生活支援センター 相談支援 市福祉課
会議参加者	参加状況	会議開催の理由・背景				
会議の検討事項・結果	<p>今春、春日台職業訓練校を卒業し、地元企業に就職。両親不在のため祖母と二人暮らしとなったが、祖母の体調が悪く、12月より老人ホームに入居することがきまつたため、稲沢市の叔母宅で暮らし始めた。叔母宅で生活していくこともマンションで一人暮らしをしていくことも困難であるため、支援方法を検討したい。</p> <p>会議開催による改善点及び残された課題と展望</p> <p>将来一人で生活したい希望があるが、今は困難。祖母との生活も叔母宅での同居も不可能となったため、新たな生活場面の探訪が必要。GH支援センターの協力でも、GHの見学を行なうことで生活のイメージを膨らませ、新たな生活の場を準備していく。きんせん管理は祖母の未成年後見から叔母の後見に変更していく。</p>					

表43 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別: 男		年齢: 33	地域: 千秋		国籍等: 日本		ID No. 2228
疾病1		疾病2	疾病3	外傷1		外傷2	その他
統合失調症	高次脳機能障害	高次脳機能障害	-	脳性傷	-	精神科通院	その他
心身機能・身体構造	精神機能 被害関係妄想・感情不安 定 集中力の低下	精神機能 被害関係妄想・感情不安 定 集中力の低下	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他	その他
活動	歩行	歩行	ADL	家事	職業能力	-	その他
参加	可	可	自立	家族が行う	休職している	-	その他
環境	可	可	自立	簡単な調理はできる	支援が整えば可	-	その他
環境	一般就労・就学	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	-	その他
環境	父親と同会社に在籍。休職中	父親と同会社に在籍。休職中	-	不明	不明	-	その他
環境	感情不安定のため困難	感情不安定のため困難	不明	不明	不明	-	その他
環境	利用している福祉用具	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物理的環境	その他の特筆すべき物理的環境
環境	-	-	-	-	一戸建て	-	-
環境	家族の支援	家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援	-
環境	父親が全面的に支援	父親が全面的に支援	精神デイクエアにて交流	不明	支援者の受け入れは比較的良好	-	-
環境	利用している制度	利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス	-
環境	身体5級、精神3級 障害厚生年金3級	身体5級、精神3級 障害厚生年金3級	不明	精神デイクエア	不明	不明	-
個人因子	(生活観)実現したい生活 生活訓練を受けたあと就労したい	(生活観)実現したい生活 生活訓練を受けたあと就労したい	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	-
本人	本人	本人	不明	タバコ	対人関係がうまくいかない	-	-
参加状況	本人	本人	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者	福祉関係者
参加状況	-	-	-	-	-	精神支援機関(2)相談支援・福祉課	精神支援機関(2)相談支援・福祉課
会議の検討事項・結果	会議開催の理由・背景						
会議の検討事項・結果	交通事故による高次脳機能障害と視野欠損の後遺症により精神障害が不安定である。就労を継続させたい意志はあるが対人関係がうまくいかずに休職中である。本人を地域で支えるための支援方法を検討したい。						
会議の検討事項・結果	家族との調整・キーマンの設定・長期・短期の目標を設定し、本人・家族に再度アセスメントを実施。また、本人の利用が継続している布袋病院へのデイクエア内での役割や目標が設定できるように協力を求めていく。						
会議の検討事項・結果	会議開催による改善点及び残された課題と展望						

表4.4 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別: 男		年齢: 17	地域: 開明		国籍等: 日本		IDNo.2229
		疾病1	疾病2	疾病3	外傷1	外傷2	平成22年12月7日現在
健康状態	精神発達遅滞	自閉症	疾病2	てんかん	外傷1	外傷2	その他
生活機能	心身機能・身体構造	精神機能 時間、予定にこだわり強く、父 に対して他害あり 重度知的 障害あり	精神機能	運動機能 問題なし	視覚・聴覚	その他	その他
活動	実行状況(している)	歩行	ADL	母が行う	家事	職業能力	その他
参加	能力(できる)	可	排他時にティッシュペー パーで遊んでしまう	本人が行うことはほとんど ない	本人が行うことはほとんど ない	学生のためなし	不明
参加	実行状況(している)	可	福祉施設等の利用	福祉施設等の利用	趣味等	簡単な作業内容は可能	不明
参加	能力(できる)	一般就労・就学	-	-	テレビ	地域の活動	その他
環境因子	物的環境	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	テレビ	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境
環境因子	人的環境	家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	不明	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境
環境因子	社会的環境	療育A	学校、むぎの会	不明	不明	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境
環境因子	個人因子	(生活観)実現したい生活 卒業後は福祉サービスを 利用する	あるが利用していない制度 (価値観)大事にしていること 不明	独自の生活習慣等 パニックになると父親に暴 力を振るう	不明	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境
会議参加者	本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境
会議参加者	参加	母	-	-	-	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境
会議の検討事項・結果	会議開催の理由・背景 会議開催による改善点及び残された課題と展望 養護学校在籍中に複数の福祉サービス事業を体験し、本人の希望や得意なこと、 不得意なことがわかり、進路を就労継続支援事業に決定する。長期休みの家庭で の過ごし方に課題があり、今後生活場面への支援を検討していく。						

表45 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別: 女		年齢: 63	地域: 開明	国籍等: 日本	IDNo. 2230
疾病1		疾病2	疾病3	外傷1	外傷2
疾病1		疾病2	疾病3	外傷1	外傷2
統合失調症	高血圧	-	-	-	精神科病院入院中
心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他
活動	歩行	ADL	問題なし	-	-
参加	単独で可能	自立	職業能力	その他	その他
環境因子	可能	自立	高齢のため必要なし	-	-
環境因子	不明	福祉施設等の利用	声掛け有れば可能	その他	その他
環境因子	利用している制度	あるが利用していない福祉用具	趣味等	地域活動	その他の特筆すべき物的環境
環境因子	家族の支援	友人との交流・支援	手芸(手順の具体的な説明が必要)	一戸建て	敷地内に兄夫婦が居住
環境因子	兄弟有、協力的	病棟の同室者に対して無関心	手芸(外来作業療法で実施)	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援
環境因子	利用している制度	あるが利用していない制度	あれば利用したい福祉用具	病院関係者との関係良好	不明
環境因子	精神2級、障害年金2級	(生活観)実現したい生活	あるが利用している公私のサービス	居宅介護、生活介護	あつたら利用したい制度・サービス
個人因子	不明	不明	外来作業療法	未解決の生活上の問題	その他の特記事項
個人因子	本人	家族	医療関係者	不明	-
個人因子	参加	兄夫婦	精神科病院PSW、病棟看護師	保健関係者	福祉関係者
会議の検討事項・結果	会議開催の理由・背景				
会議の検討事項・結果	入院前は身の回りのことは自分でやったり、兄夫婦に声掛けに行うことが出来ていた。しかし、意欲が低下し、声掛けには出来ない事が増えてしまった。兄夫婦の負担を軽減しながら地域で生活していく方法を本人、兄夫婦らと共に考えた。				
会議の検討事項・結果	会議開催による改善点及び残された課題と展望				
会議の検討事項・結果	外泊を繰り返し、本人の中で生活のイメージができるようになった所でヘルパーの支援内容や量について具体的に考えていく。日中は、入院前と同様で精神科デイケアを利用する方向とする。福祉サービス受給者証は、入院中に兄が申請する。				

表46 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別: 男	年齢: 17	地域: 奥町	国籍等: 日本	平成22年12月21日現在	IDNo.2231
疾病1	疾病2	疾病3	外傷1	外傷2	その他
精神発達遅滞	自閉症	-	-	-	-
心身機能・身体構造	精神機能 数字や物事の手順にこだわりあり パニック、自傷あり 中度的知的 障害あり	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他
活動	歩行	ADL	家事	職業能力	その他
生活機能	可	ほぼ自立	母が行う	手順や数にこだわり能力を 落とす	不明
参加	可	ほぼ自立	高校生で、やらせていない	訓練により改善できる	不明
環境因子	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他
環境因子	養護学校高等部3年生	-	ゲーム 自転車以外	うさぎのパン屋さんで活動	不明
環境因子	養護学校高等部3年生	-	休日一人で行方まで外出している	不明	不明
環境因子	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境
環境因子	家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	母が離婚調停中で、同敷地内に ある両親のいる母屋で生活して いる
環境因子	両親は別居中のため、父の 援助はない 母の両親の援助 あり	学校の友人とはゲームを したりして過ごす	不明	うさぎのパン屋さんで活動	ボランティア等その他の人的交流・支援
環境因子	療育B	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス
環境因子	(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項
環境因子	卒業後は福祉サービスを 利用して生活する	不明	休日には遠方まで自転車 で出かけてしまう	父親をイメージさせる男性 は苦手	携帯電話を持ち、メール交換がで きるようになった
参加状況	本人	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者
参加状況	参加	母	-	-	養護学校担任 就労移行 支援 就労継続支援 相 談支援
会議の 検討事項 結果	会議開催の理由・背景				
会議の 検討事項 結果	養護学校卒業前に、これまでの学生時代の情報を今後利用予定である障害者福祉サービスにつなぎ、さらに、卒業後の進路先の検討と必要な援助方法を整理し、卒業後に、本人の希望に添った支援がスムーズに行えるように、関係者を集めて協議する。				
会議の 検討事項 結果	会議開催による改善点及び残された課題と展望 学校卒業後は就労継続支援事業を選択。自力通所できる能力はあると思われるが、道順を覚えるまでに支援が必要。将来の一般就労を目標に、就労移行支援も視野に入れて支援計画を立てていく。両親の離婚に伴い、母子家庭となり、母が働かなければならなくなるため、今後生活支援の内容も検討していく必要がある。				

表4-7 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別: 女		年齢: 17	地域: 萩原	国籍等: 日本	平成22年12月21日現在	ID No. 2232
健康状態	疾病1	疾病2	疾病3	外傷1	外傷2	その他
精神発達遅滞	自閉症					
心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他
	重度知的障害物に対するこだわり強い	問題なし	問題なし	問題なし	言葉によるコミュニケーションでは不十分	-
活動	歩行	ADL	家事	家事	職業能力	その他
実行状況(している)	可	ほぼ自立	母が行う	母が行う	学生のためなし	うさぎのパンやで活動
能力(できる)	可	食事は制限あり排泄は不安定になると回数が増える	不明	不明	支援つきで簡単な作業であれば可能	衛生面の配慮はできず
参加	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	趣味等	地域活動	その他
実行状況(している)	養護学校高等部3年	日中一時支援	電車に乗って外出し、キオスクで大量に菓子類を購入	電車に乗って外出し、キオスクで大量に菓子類を購入	うさぎのパン屋さんに所属	買い物方法の修正のため外出支援を利用
能力(できる)	利用している福祉用具	-	電車に乗って外出し、キオスクで大量に菓子類を購入	電車に乗って外出し、キオスクで大量に菓子類を購入	不明	不明
物的環境			あれば利用したい福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境
人的環境	家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	近隣との交流・支援	一戸建て(持ち家)	自宅の敷地内にパン工房あり
社会的環境	療育A	療育A	療育A	療育A	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援
個人因子	本人	本人	本人	本人	小学校時代より歴の木福祉会と交流し関係は良好	-
参加状況	参加	参加	参加	参加	あるが利用していない公的サービス	あったら利用したい制度・サービス
会議参加者	本人	本人	本人	本人	日中一時支援 移動支援	-
会議の検討事項	本人	本人	本人	本人	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題
結果	本人	本人	本人	本人	食に対する執着強く肥満傾向	その他の特記事項
会議の検討事項	本人	本人	本人	本人	外中一時支援 移動支援	-
結果	本人	本人	本人	本人	医療関係者	福祉関係者
会議の検討事項	本人	本人	本人	本人	私的関係者	生活介護 就労継続支援 居宅介護 相談支援
結果	本人	本人	本人	本人	会議開催による改善点及び残された課題と展望	
会議の検討事項	本人	本人	本人	本人	卒業後は就労継続支援事業を選択。こだわりが強く、一度過ごし方のイメージを持ってしまふと修正が困難になるため十分な準備をしておく。休日の余暇については、外出支援を利用し、お金の使い方の学習を継続していく。	

表48 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別: 男		年齢: 18		地域: 大和		国籍等: 日本		ID No. 2233	
		疾病1		疾病2		疾病3		平成22年12月20日現在	
生活機能	精神発達遅滞	自閉症	アトピー性皮膚炎	外傷1	外傷2	その他	精神科通院	その他	
	心身機能・身体構造	精神機能 最重度知的障害 パニック、自傷あり	運動機能 体幹機能障害	視覚・聴覚	その他	その他	その他	こたわりが強く、一度失敗するとその場所に行けなくなる	
活動	実行状況(している)	歩行	ADL	家事	職業能力	その他	その他	不明	
	能力(できる)	手を添える、すぐそばで見守るなど 単独の歩行も可能だが不安定で転倒の危険常にあり	食事、排泄は一部介助入浴、着替え等は全介助 すべての動作に介助が必要	母が行う 本人が行うことはない	学生のためなし 支援つきで簡単な作業であれば可能	不明	不明	不明	
参加	実行状況(している)	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他	その他	十分な事前準備により外出したり、活動に参加している	
	能力(できる)	養護学校高等部3年	日中一時支援	DVD、電車をみる	てのひらの会	不明	不明	不明	
環境因子	物的環境	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	DVD、電車をみる	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境	その他	マンションの3Fに住んでいるため、近隣に配慮必要	
	人的環境	保護帽・くつ 家族の支援 兄弟はなし 母は精神科に通院している	友人との交流・支援 てのひらの会に所属	近隣との交流・支援 近隣との交流はあまりない	マンション(分譲)	マンションの3Fに住んでいるため、近隣に配慮必要	その他	ボランティア等その他の人的交流・支援	
社会環境	利用している制度	利用している制度	あるが利用していない制度	利用している福祉用具	放課後支援 利用できる ところが少ない	あるが利用していない公営のサービス	その他	あったら利用したい制度・サービス	
	身体3級、療育A	身体3級、療育A	不明	短期入所を1週間経験あり	日中一時支援 居宅介護	あるが利用していない公営のサービス	その他	あつたら利用したい制度・サービス	
個人因子	(生活観)実現したい生活	(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	あるが利用していない制度	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他	その他の特記事項	
	卒業後は福祉サービスを 利用して生活したい	卒業後は福祉サービスを 利用して生活したい	不明	あるが利用していない制度	思い通りにならないとパニックになる	母が精神的に不安定になることがある	その他	その他の特記事項	
会議参加者	本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者	福祉関係者	福祉関係者	
	-	母	-	-	-	-	-	養護学校担任、居宅介護事業所、生活介護事業所、日中一時支援、相談支援	
会議の検討事項・結果	会議開催の理由・背景			会議開催による改善点及び残された課題と展望					
<p>養護学校卒業前に、これまでの学生時代の情報を今後利用予定である障害者福祉サービスにつなぎ、さらに、卒業後の進路先の検討と必要な援助方法を整理し、卒業後に、本人の希望に添った支援がスムーズに行えるように、関係者を集めて協議する。</p> <p>こたわりが強く、一度失敗してしまうと、その場所に行けなくなったり、活動に参加できなくなってしまうため、高等部卒業後、スムーズに活動を切り換えていくための工夫を検討し、関係者が調整することができた。卒業後は生活介護事業に決定。卒業式直後からサービスを利用することを調整。</p>									

表49 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別:男		年齢:18	地域:向山	国籍等:日本	IDNo.2234
疾病1	疾病2	疾病3	外傷1	外傷2	その他
精神発達遅滞	自閉症	-	-	-	-
心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他
重度知的障害 時間の区切りにござわりあり	重度知的障害 時間の区切りにござわりあり	問題なし	場面により耳ふさぎあり	満腹感覚はない	-
歩行	歩行	ADL	家事	職業能力	その他
可	可	自立	母が行う	学生のためなし	母の目を盗んで包丁を使うなどすることがある
可	可	自立	一人で野菜を切るなどをしてしまいが、やらせない	簡単な作業内容は可能	不明
一般就労・就学	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他
養護学校高等部3年生	養護学校高等部3年生	日中一時支援	DS・太鼓	てのひらの会で活動	不明
養護学校高等部3年生	養護学校高等部3年生	卒業後就労系事業所を希望	自発的に楽しみを見つけていることは困難	不明	不明
利用している福祉用具	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境
物的環境	-	-	-	一戸建て(持ち家)	-
人的環境	家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ポランティア等その他の人的支援・支援
兄弟仲も良く、家族に大切にされている	兄弟仲も良く、家族に大切にされている	てのひらの会の活動に参加している	母の姉妹が協力的	小学校時代よりかしの木の里を利用して関係は良好	-
利用している制度	利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス
療育A	療育A	-	日中一時支援	-	-
(生活観)実現したい生活	(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項
卒業後は就労系事業所に通所したい	卒業後は就労系事業所に通所したい	不明	指示されたことは何でも行いたい	家族の不在時に火や包丁を使ってしまう	-
本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者
参加	母	-	-	-	養護学校担任、就労移行支援、就労継続支援、相談支援
会議の検討事項	会議開催の理由・背景	会議開催による改善点及び残された課題と展望			
結果	会議の検討事項	会議の検討事項	・本人の希望により、学校卒業後は就労継続支援事業を利用することに決定。将来的には一般就労も視野に入れ、就労移行支援も検討していく。		

表50 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別: 女		年齢: 45		地域: 大和		国籍等: 日本		IDNo.2235		平成22年12月9日現在	
健康状態	疾病1	疾病2	疾病3	外傷1	外傷2	その他					
	統合失調症	糖尿病(インシュリン注射有)	乳がん(乳房摘出。ホルモン療法継続中)	-	-	精神科通院					
生活機能	心身機能・身体構造		精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他					
	比較的安定している		問題なし	問題なし	問題なし	不明	-				
活動	実行状況(している)	歩行	ADL	家事	職業能力	その他					
	能力(できる)	可能	自立	自立	ヘルパーに掃除、調理を依頼	していない(幻聴始まり、断念)	-				
参加	実行状況(している)	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他					
	能力(できる)	していない	-	-	ラジオ、テレビ、雑誌	不明	-				
環境因子	物的環境	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境					
	人的環境	家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	市営住宅	-					
背景因子	社会的環境	利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援					
	個人因子	精神2級、障害基礎年金2級、生活保護	(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	不明	不明					
会議参加者	本人	資格を取って働きたい	別居している息子の成長を見届ける事	たくさん食事を取り、戻してしまう	未解決の生活上の問題	その他の特記事項					
	参加	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者					
会議の検討事項・結果	会議開催の理由・背景		会議開催による改善点及び残された課題と展望								
	夕飯用に届けてもらっている業者の弁当が口に合わないため残したり、箸をつけないかったりする。(同)の屋に配食サービスで取っている弁当は口に合う。その業者は夜の宅配を行っているため、屋の配食サービスで受け取り夕飯として食べたい。毎日デイケアに来なければならぬため、デイケアで弁当の受け取りがしたい。		自宅でお弁当を受け取ってからデイケアに来所する。【市の見解】配食サービスは安否確認が目的であるため自宅での受け取りが原則。夕食に対応できる弁当業者が増え、利用者の選択肢が増える事を望む								

表51 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別:女		年齢:48	地域:葉栗		国籍等:日本		IDNo.2236
		疾病2	疾病3	外傷1	外傷2	その他	平成22年12月15日現在
統合失調症	不明	不明	不明	-	-	精神科通院	その他
心身機能・身体構造	妄想あり	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	-	その他
活動	歩行	ADL	家事	職業能力	その他	-	その他
参加	単独で可能	自立	一切しない、親とヘルパー任せ	一般就労を希望している	母親が高年福祉課で金銭管理されているため、本人も間接的に管理されている	-	その他
環境因子	単独で可能	自立	やる気がない	福祉的就労は可能、ステップアップしていくという考えがない	母親にお金を無心して飲食に使う	-	その他
背景因子	一般就労・就学中	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他	-	その他
	中	-	食品の買物、喫茶店	-	-	-	-
	18歳の時、ガソリンスタンドでのバイト経験あり	-	お金があれば飲食代に使う	能力は有るが、本人にやる気がない	-	-	-
	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境	-	その他の特筆すべき物的環境
	-	-	-	市営住宅	-	-	-
	家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援	-	-
	母:要支援1。本人が可愛くすくにお金を与えてしまう。	-	-	ヘルパーに依存的	-	-	-
	利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あつたら利用したい制度・サービス	-	-
	精神2級、生活保護	-	居宅介護、配食サービス	-	-	-	-
	(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	-	家事をやる気持がなく、母やヘルパーにやられて当然と思っている。
	一般就労をして、月10万円は稼ぎたい。	不明	不明	お金を計画的に使う事	福祉関係者	-	福祉関係者
	本人	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者	-	福祉関係者
会議参加者	本人	家族	精神科病院PSW	-	居宅介護事業所、社協、地域包括支援、生活福祉課、高年福祉課、相談支援	-	居宅介護事業所、社協、地域包括支援、生活福祉課、高年福祉課、相談支援
会議の検討事項・結果	会議開催の理由・背景						
	本人は、生活費のほとんどを食費として使ってしまう。母親は本人が可愛いから自分の食費等を削ってまでお金を渡し、家計は赤字になっている。母親の日常生活自立支援事業利用開始に向けて、高年福祉課が行っている母親の金銭管理の状況を整理するため開催						
	母親には計画的に金銭管理ができるように1日ごとに封筒に入れる。本人にお金を渡す必要はないように、母親自身に金銭感覚を身につけてもらう必要がある。本人が(間接的に)金銭管理されることで負荷が掛った時どのような状態になるのか。また、金銭感覚、生活能力がどこまで改善されるのか、という課題が残る。						

表52 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別: 男		年齢: 48		地域: 千秋		国籍等: 日本		IDNo.2237		平成22年12月20日現在	
疾病1		疾病2		疾病3		外傷1		外傷2		その他	
統合失調症		-		-		1年程前に右足大腿骨頭部骨折		-		精神科通院	
心身機能・身体構造		精神機能		運動機能		視覚・聴覚		その他		その他	
安定している		安定している		足が上がらないため、転びやすい		問題なし		歯がなくて言葉が聞き取りづらい		-	
歩行		歩行		ADL		家事		職業能力		その他	
実行状況(している)		びっこを引くように歩く		自立		兄、ヘルパーと共に本人が一部行う		-		-	
能力(できる)		可能		自立		やったことがないため出来ないが、やりたい気持ちは有る		おそらく不可		-	
実行状況(している)		一般就労・就学		福祉施設等の利用		趣味等		地域活動		その他	
能力(できる)		おそらく不可		-		カラオケ		-		-	
利用している福祉用具		利用している福祉用具		あるが利用していない福祉用具		あれば利用したい福祉用具		住居の状況		その他の特筆すべき物的環境	
物的環境		-		-		-		持他家		軽井沢に別荘有	
人的環境		家族の支援		友人との交流・支援		近隣との交流・支援		関係者との交流・支援		ボランティア等その他の人的交流・支援	
社会環境		兄、兄にとって重たく行為がある本人に手を上げる		ダイケアメンバーとの関係、特に問題なし		-		ヘルパーとダイケアスタッフ、関係良好		-	
個人因子		利用している制度		あるが利用していない制度		利用している公私のサービス		あるが利用していない公私のサービス		あったら利用したい制度・サービス	
本人		精神2級、障害年金		-		居宅介護、精神科ダイケア、訪問看護、		短期入所		-	
家族		(生活観)実現したい生活		(価値観)大事にしていること		独自の生活習慣等		未解決の生活上の問題		その他の特記事項	
兄		不明		不明		不明		兄から時々暴力があるため難れたい気持ちと一緒に居たい気持ちがある		-	
私的関係者		家族		私的関係者		医療関係者		保健関係者		福祉関係者	
本人		-		-		精神科ダイケアPSW		-		居宅介護事業所、相談支援	
会議開催の理由・背景		会議開催の理由・背景		会議開催による改善点及び残された課題と展望		会議開催による改善点及び残された課題と展望		-		-	
本人がトイレを汚して掃除をできなかったり、兄の飲み物を勝手に飲んだりした時に、兄は殴る等してしまう。自宅での本人との関わり確認を、本人と兄との間で適度な距離を保持できるように短期入所の案内をするため		本人がトイレを汚して掃除をできなかったり、兄の飲み物を勝手に飲んだりした時に、兄は殴る等してしまう。自宅での本人との関わり確認を、本人と兄との間で適度な距離を保持できるように短期入所の案内をするため		本人がトイレを汚して掃除をできなかったり、兄の飲み物を勝手に飲んだりした時に、兄は殴る等してしまう。自宅での本人との関わり確認を、本人と兄との間で適度な距離を保持できるように短期入所の案内をするため		本人がトイレを汚して掃除をできなかったり、兄の飲み物を勝手に飲んだりした時に、兄は殴る等してしまう。自宅での本人との関わり確認を、本人と兄との間で適度な距離を保持できるように短期入所の案内をするため		本人がトイレを汚して掃除をできなかったり、兄の飲み物を勝手に飲んだりした時に、兄は殴る等してしまう。自宅での本人との関わり確認を、本人と兄との間で適度な距離を保持できるように短期入所の案内をするため		本人がトイレを汚して掃除をできなかったり、兄の飲み物を勝手に飲んだりした時に、兄は殴る等してしまう。自宅での本人との関わり確認を、本人と兄との間で適度な距離を保持できるように短期入所の案内をするため	

表53 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別: 女		年齢: 45	地域: 木曾川	国籍等: 日本	平成22年12月28日現在	IDNo.2238
疾病1	疾病2	疾病3	外傷1	外傷2	その他	
精神発達遅滞						
心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他	
	嫌な状況から逃げ出してしまう。軽度知的障害あり	問題なし	問題なし			
活動	歩行	ADL	家事	職業能力	その他	
実行状況(している)	単独で可能	自立	母親と共に行動	自己流に就職活動をしている		
能力(できる)	単独で可能	自立	声掛け必要	仕事内容と環境が整えば可能		
参加	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他	
実行状況(している)	自己流に就職活動をしている		不明	不明		
能力(できる)	高卒後、洋服の販売・接客の経験あり		不明	不明		
物的環境	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境	同敷地内に両親が住む
環境因子	家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援	
人的環境	父(足が不自由)母→育児、金銭的援助、長男高3、長女療育C/養護学校高1、次女小5	不明	不明	不明	元夫からの養育費9万円	
社会環境	療育C	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス	
個人因子	(生活観)実現したい生活働いて子どもに小遣いをあげたい	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	
本人	本人	私的関係者	不明	不明		
参加状況	参加	母親	医療関係者	保健関係者	福祉関係者	就業・生活支援センター、相談支援
会議参加者	本人	参加	医療関係者	保健関係者	福祉関係者	就業・生活支援センター、相談支援
会議の検討事項・結果	会議開催の理由・背景					
	両親と同層、家事や育児をほとんど母親に任せており、金銭的にも援助してもらっている状態。母親への負担が大きく、「せめて働いて子どもたちに母親らしい姿見せて欲しい」と母親に背中を押され、独自に就職活動をするが見つからない。そこで、就労に向けて支援の方向性を考える事となった。					
	就労の経験はあるがブランクがあるため、まず就労移行支援事業所で働き、就労のイメージ作りをする。仕事に慣れてさらにステップアップしたいと思うようになった時には、再び就労・生活支援センターで相談に対応する。					

